

令和6年度 第2回地域授業改善協議会<竹田教育事務所管内>

令和6年7月31日(水) 豊後大野市清川公民館

各学校の教務主任(研究主任)の先生方を対象に、「各種学力調査の分析と分析結果をもとにした授業改善」について研修を行いました。

<講義テーマ>

各種学力調査の分析について~多面的・多角的に分析し、授業改善へ~

<講義内容>

- ①分析の目的について
- ②各種学力調査の検証・改善の進め方について
- ③全国学力・学習状況調査について
- ④各種帳票について(クロス集計について・S-P表について)

講義

各種調査結果をどう分析するか

令和6年度 第2回地域授業改善協議会

各種学力調査の分析について
~多面的・多角的に分析し、授業改善へ~



令和6年7月31日(水)
竹田教育事務所

各種帳票について

- ・「調査結果概況」
- ・「設問別調査結果」
- ・「結果チャート」
- ・「児童生徒質問紙回答結果集計」
- ・「学校質問紙回答結果集計」
- ・「クロス集計」
- ・「S-P表」

⇒ 自校の誤答の特徴を捉え、課題を明確化する

教科の平均正答率だけでなく、公表されている帳票に記載されている集計値一つひとつをしっかりと吟味し、解釈することが重要

← 講義では、実際に全国学力・学習状況調査問題を見る時間も設定しました。すでに解いていた方も多数いましたが、他校種の問題も見ることで、小中連携で大切にすべきことに気づききっかけになりました。

→ クロス集計やS-P表について扱う際には、それらの手法をすでに学校で活用されている参加者の方に活用法を紹介していただいたり、実際の結果を分析して考えを共有してもらったりしました。



<協議テーマ>

学力調査の分析結果をもとにした授業改善

<協議・演習の目標>

自市の取組の成果や課題を明らかにし、授業改善のポイントを考える

<協議の流れ>

- ①全国学力・学習状況調査結果分析(国語、算数・数学、児童生徒質問紙の担当に分かれて)
- ②国語、算数・数学、児童生徒質問紙の担当者による授業改善のポイント整理
- ③全体共有・まとめ

協議

分析したことをどのように授業改善につなげるか



← ①自分の校種における自分の担当の調査結果を分析し、同じ担当の方と意見を交流しました。



↑ ③最後には他グループのまとめを見て回る時間も設定し、様々な方策があることを共通理解し、視野を広げることができました。

→ ②次に班を再編成し、担当が異なる方々と①の内容を踏まえて議論をし、授業改善のポイントを整理しました。



(参加者の感想)

- ・クロス集計やS-P表をもとにした分析方法と活用方法を、とても分かりやすく説明してくれたので、分析について深く学ぶことができました。これまでのマイナスのイメージから、自分自身の課題解決にもつながるプラスのイメージがもてるようになりました。
- ・児童(生徒)質問紙と国語・算数(数学)の学力調査の結果をクロスさせて、その結果から考察することで、生活面と得意・苦手分野の関わりが見えてきたり、教科間の共通点や相違点を発見することができたりすることが分かりました。様々な視点で考察し、他の先生方とすり合わせていくことで、より確かな分析になります。そこから様々な課題を浮き彫りにすることができ、校内体制と照らし合わせながら対応可能な箇所を選択し、授業改善を通して、その課題にアプローチしていくことができると思います。